

## キッチン白書 2020 公開 断捨離すすむ?! キッチン空間の保有物、減少傾向

～献立の変化、調理の時短化も遠因か?～

クリナップ(本社:東京都荒川区 代表取締役 社長執行役員:竹内 宏)のおいしい暮らし研究所では、「キッチンから見た生活者の“いま”」を紐解くべく、食・物・空間の変化を3年ごとに調査・分析したものを『キッチン白書』として発表しています。今回はキッチン空間に保有される調理器具類、食器類の変化を中心に調査。2011年、2016年と比較し、全年代でほぼすべてのアイテム保有率が低下していることがわかりました。

### ①調理器具は約2.5割、食器類は約4割減少

キッチン空間で保有されている調理器具・食器類の平均保有点数は、調査開始を開始した8年前(2011年)と比較し、調理器具類は約2.5割、食器類は約4割減少。



### ②茶柱占いは遠き昔…。急須でお茶を淹れる習慣は減少?

食器類の中では特に「急須」「湯呑」の保有率が大きく低下。年代別では特に20-40代での低下が著しい。ペットボトル飲料の普及などにより、自宅でお茶を淹れる習慣が薄れている様子がうかがえる。

### ③調理器具は合理化傾向。食器類の減少は献立変化の影響か?

調理器具では、使用用途に限られるものの保有率低下が顕著。食器類では改まった場で必要なもの、使用するシーンに限られるアイテムの低下が目立つ。

また、全体的な食器類の保有率低下は、『キッチン白書 2019 献立編』で見えた「和食が減り一品料理で食事となる献立への変化」との関連も推測される。

詳細は『キッチン白書 2020』をご覧ください。WEB サイトでも公開しています。

<http://cleanup.jp/oikura/kitchen-hakusyo/>



#### 【調査概要】

実施期間: 2019年6月13~16日

調査地域: 全国

調査対象: 同居家族がいる20~60代の既婚女性(離死別除く、居住年数およびキッチンリフォーム後1年以内を除く)

回答者数: 1,518名

調査方法: インターネットによるアンケート

※同条件にて、2011年(回答者数:1,500名)、2016年(回答者数:1,484名)にも調査を実施

#### 「おいしい暮らし研究所」とは・・・

キッチンを通じた、楽しいふれあいの場作りに貢献するために、生活者の食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行っているクリナップ(株)の研究部門(2009年発足)です。

Kitchen Annual Report  
**キッチン白書® 2020**  
〈キッチン空間保有物調査編〉

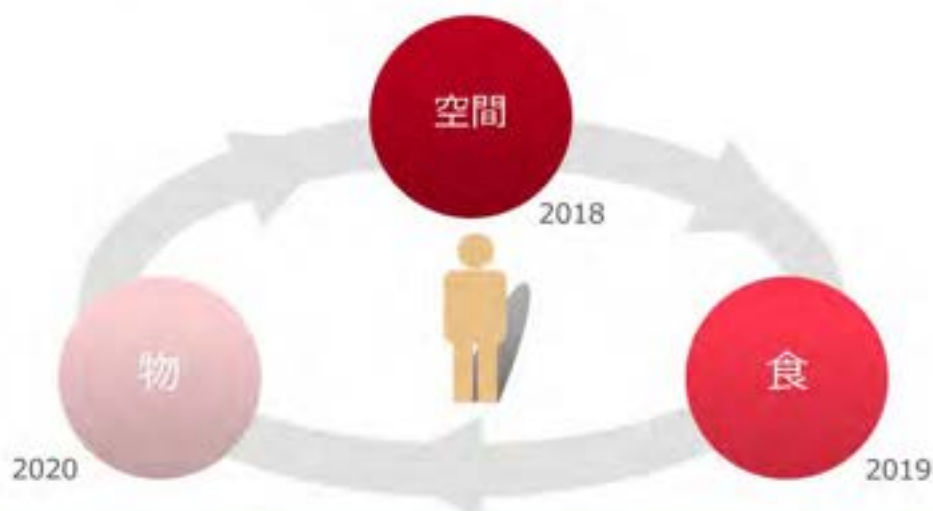


**クリナップ株式会社**  
おいしい暮らし研究所®



|    |                                 |    |
|----|---------------------------------|----|
| 1. | はじめに                            |    |
| 2. | キッチン空間の収納について                   |    |
|    | -キッチン収納の「余裕感」若年層で増加             | 04 |
| 3. | キッチン空間のアイテムについて                 |    |
|    | -調理器具、食器の断捨離が加速か？               | 05 |
|    | -使用用途が限られる調理器具は減少傾向             | 06 |
|    | -急須でお茶を淹れて飲む習慣は減少か？             | 07 |
|    | -使用シーンが限られる食器は減少傾向              | 08 |
|    | -お弁当関連、食卓を楽しむアイテムは子の巣立ちと共に断捨離か？ | 09 |
| 4. | 年代別のアイテムや空間に対する意識について           |    |
|    | -若年層ほどシンプル、年代が上がるほどこだわりが強くなる傾向  | 10 |
| 5. | 年代別の料理・家事に対する意識について             |    |
|    | -若年層ほど強まる家事・料理の省手間意識            | 11 |
| 6. | 年代別の理想のキッチンについて                 |    |
|    | -20代は収納量、60代は出し入れのしやすさを重視       | 12 |
| 7. | まとめ                             | 13 |

キッチン白書とは、クリナップが「家族の笑顔を創ります」という企業理念の下で、もっと食を、家族を、暮らしを、深く知り、考えていくために「食、物、空間」それぞれを3年おきに調査しまとめたものです。





## 1. はじめに

クリナップは日本で初めてシステムキッチンを製造、販売したキッチンメーカーとして、キッチンにまつわる生活者の実態調査を継続的に実施しています。

今年度の調査では、キッチン空間に保有されている調理器具類、食器類の変化と、生活者の暮らしに関する意識について分析した結果の一部を“キッチン白書”として公開します。

### 調査概要

実施期間：2019年6月13日～16日

調査地域：全国

調査対象：同居家族がいる20～60代の既婚女性（離死別除く）、居住年数及びキッチンリフォーム後1年以内を除く

回答者数：1,518名

調査方法：インターネットによるアンケート調査

同条件にて2011年（回答者数：1,500名）、2016年（回答者数：1,484名）調査を実施

※グラフ内記載の（）はn数





## 2. キッチン空間の収納過不足感について

### －キッチン収納の「余裕感」若年層で増加

- ▶ 2019年：年代が上がるほど、キッチン空間の収納が「かなり余裕がある」「少し余裕がある」と回答している人の割合が低くなるが、50代を底に60代で高くなる。
- ▶ 時系列推移：20代、30代では、キッチン空間の収納に余裕があると感じている人の割合が増加している。また、60代ではキッチン空間の収納がちょうど良いと感じている人の割合が増加している。

Q.あなたは、ご自宅のキッチンの収納スペースについて、どのようにお感じですか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。(ひとつだけ)

■かなり余裕がある ■少し余裕がある ■ちょうど良い ■少し足りない ■かなり足りない

【2019年】年代別\_収納過不足感



【時系列推移】年代別\_収納過不足感





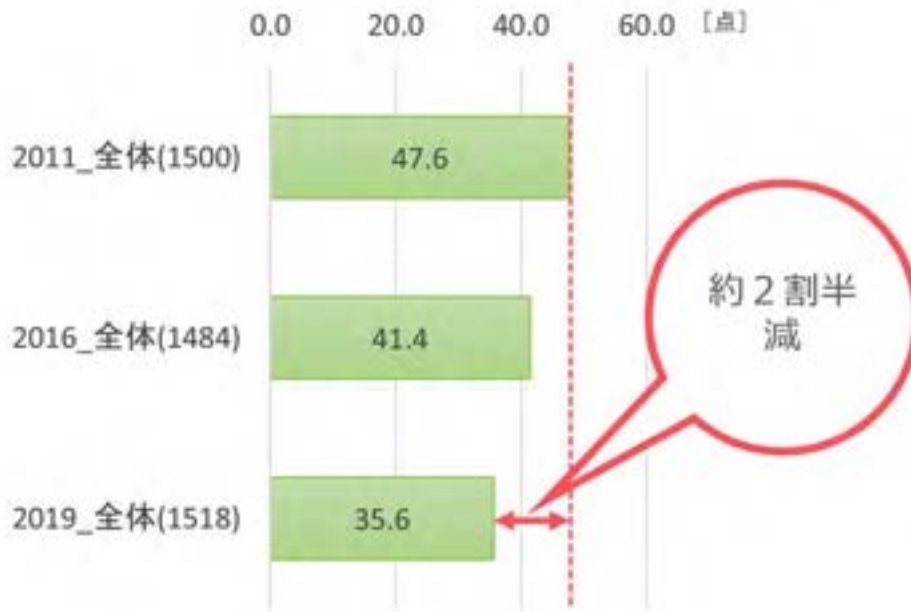
### 3. キッチン空間のアイテムについて

#### －調理器具、食器の断捨離が加速か？

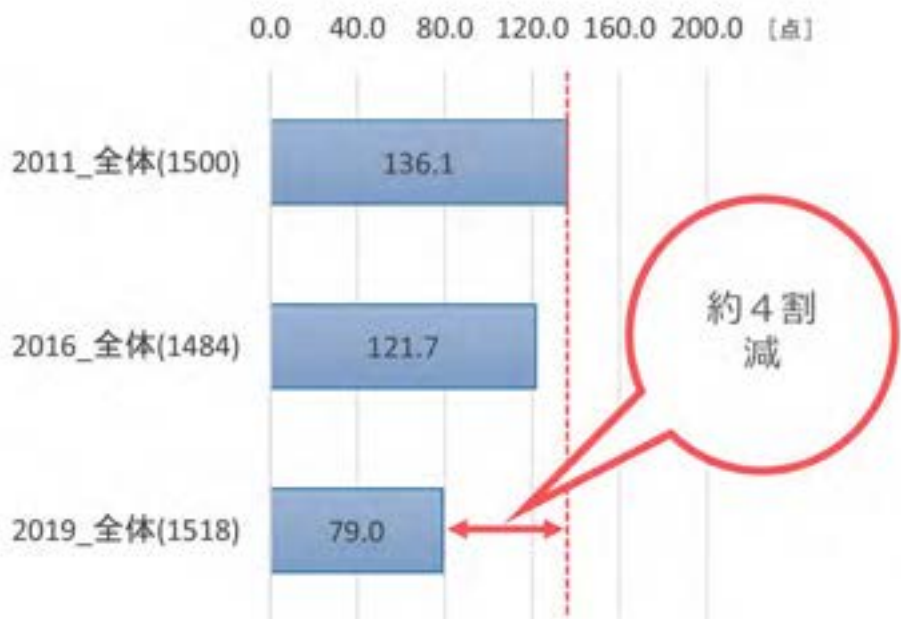
➤ キッチン空間で保有される調理器具類の平均保有点数※の合計は、調査開始の8年前より約2割減り、食器類に関しては、約4割減っている。

※平均保有点数：3ヵ年調査において聴取方法が同一なアイテムのみの平均保有点数を足し上げ算出

#### 調理器具類\_平均保有点数



#### 食器類\_平均保有点数





### 3. キッチン空間のアイテムについて

#### －使用用途が限られる調理器具は減少傾向



- ▶ ほぼすべての調理器具類で保有率※が低下しているが、特に「泡立て器（電気・手動）」「缶切り・栓抜き・コルク抜き」といった使用用途が限られている調理器具類の保有率の低下が目立ち、どちらも2011年調査より全体で2割以上低下している。
- ▶ 年代別に見ると、全年代で保有率が低下しているが、20代、30代では2011年調査より2割以上低下しており、特に若年層における低下が大きい。

※保有率：該当のアイテムを保有している人の割合



### 3. キッチン空間のアイテムについて

#### －急須でお茶を淹れて飲む習慣は減少か？



- 調理器具類同様、ほぼすべての食器類で保有率が低下。特に、「湯呑」「急須」の保有率の低下が目立ち、どちらも全体で2011年調査より2割以上低下している。
- 年代別に見ると、20代、30代、40代の若年層で低下が目立つ。ペットボトル飲料の普及などの影響により、自宅でお茶を淹れる習慣が薄れているのかもしれない。

※保有率：該当のアイテムを保有している人の割合





### 3. キッチン空間のアイテムについて

#### －使用シーンが限られる食器は減少傾向



- また、「お盆・トレイ」「ナイフ」の保有率が2011年調査より約2割低下しており、改まった場で必要な物など、使用するシーンが限られるアイテムの低下が目立つ。
- 年代別に見ると、20代、30代、40代の若年層で低下が目立ち、生活スタイルの変化が伺える。

※保有率：該当のアイテムを保有している人の割合

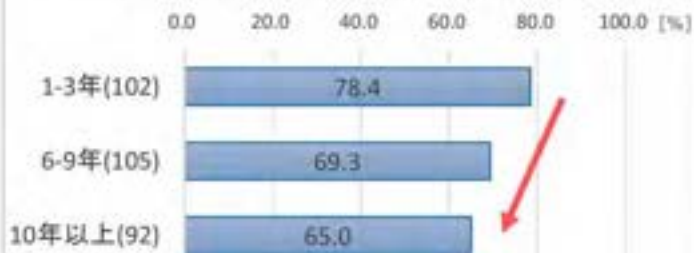


### 3. キッチン空間のアイテムについて - お弁当関連、食卓を楽しむアイテムは 子の巣立ちと共に断捨離か？



▶ 子供が別居してからの経過年数に伴い、「玉子焼き器」「弁当箱」といったお弁当関連のアイテムの保有率が低下している。また、「ホットプレート」「ホットサンド」といった食卓や料理を楽しむための調理家電類の保有率も低下している。何れも、子供が巣立ちからの時間が経つほど断捨離される傾向にある。

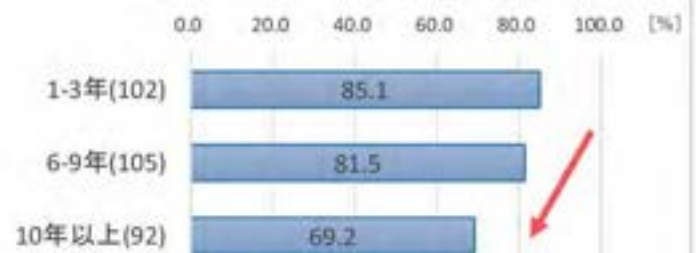
【子供の別居経過年数別】玉子焼き器\_保有率



【年代別】玉子焼き器\_保有率



【子供の別居経過年数別】弁当箱\_保有率



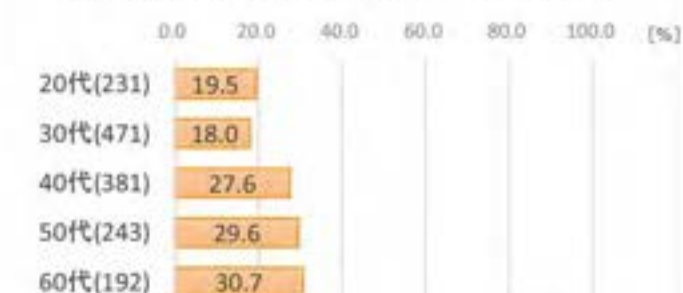
【年代別】弁当箱\_保有率



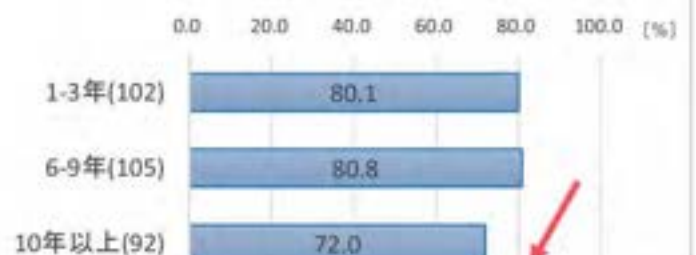
【子供の別居経過年数別】ホットサンド、  
ワッフルメーカー\_保有率



【年代別】ホットサンド、ワッフルメーカー\_保有率



【子供の別居経過年数別】ホットプレート、  
たこ焼き器、グリル鍋\_保有率



【年代別】ホットプレート、グリル鍋、たこ焼き器\_保有率





#### 4. 年代別アイテムや空間に対する意識について



#### –若年層ほどシンプル、年代が上がるほどこだわりが強くなる傾向

- ▶ 「食器・調理器具などは必要最小限を心掛けている」「食器は形・色・デザインがシンプルな物を持っている」に対し、若年層ほどあてはまると回答する人の割合が高くなり、シンプルな物の持ち方を心掛けている。
- ▶ 一方、年代が上がるほど「調理器具・家電にはブランド・デザイン・使いやすさにこだわりを持って選んでいる」「キッチン空間のデザインやセンスにはこだわりを持っている」に対し、あてはまると回答する人の割合が高くなり、アイテムや空間に対してこだわっている。このことから、年代によって物の持ち方に対する意識が対照的な様子が伺える。

■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■どちらともいえない ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

食器・調理器具などは必要最小限を心掛けている



食器は形・色・デザインがシンプルな物を使っている



調理器具・家電にはブランド・デザイン・使いやすさなどにこだわりを持って選んでいる



キッチン空間のデザインやセンスにはこだわりを持っている





## 5. 年代別料理・家事に対する意識について

### －若年層ほど強まる家事・料理の省手間意識



- ▶ 「家事は、手間をかけないよう工夫している」「キッチンが汚れる料理はしない」に対し、若年層ほど、あてはまると回答する人の割合が高くなり、家事の手間を省く工夫をしている様子。
- ▶ また、「カット野菜・ミールキット・レトルト・惣菜加工食品等を活用している」に対しても若年層ほど、あてはまると回答する人の割合が高くなり、加工食品などを上手く活用することで料理の手間を省いている様子が伺える。

■ ともあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない

家事は、手間をかけないよう工夫している



キッチンが汚れる料理はしない



カット野菜・ミールキット・レトルト・惣菜・加工食品等を活用している



## 6. 年代別理想のキッチンについて

－20代は収納量、60代は出し入れのしやすさを重視



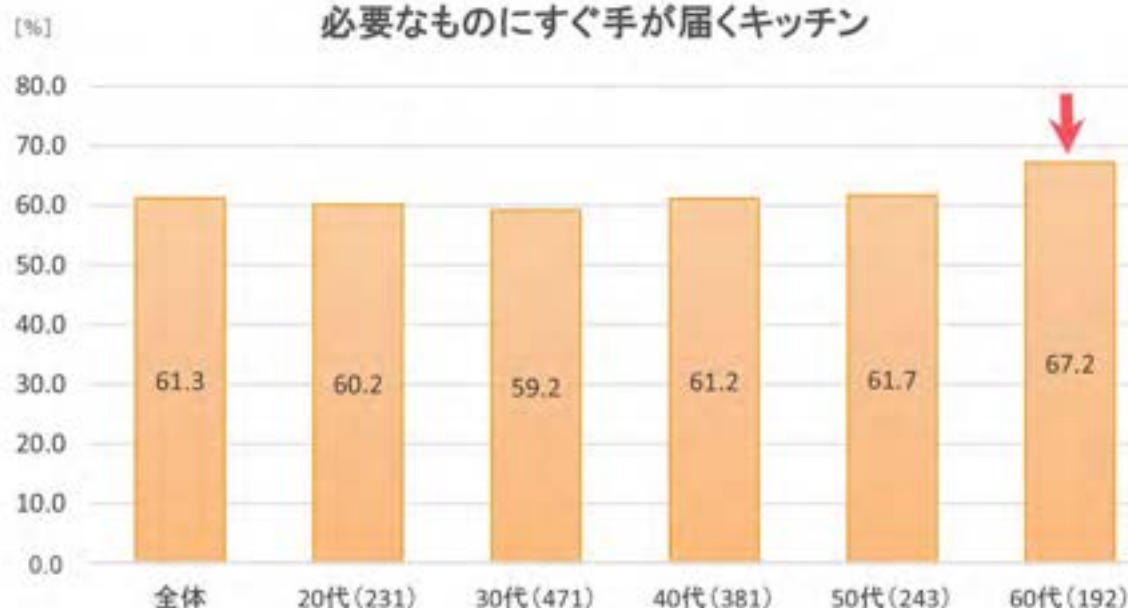
- 「収納スペースが多いキッチン」「必要なものにすぐ手が届くキッチン」を理想としている割合はどちらも全体が6割以上と収納に対する関心が強い。
- 特に20代は「収納スペースが多いキッチン」を理想としている割合が全体より7pt以上高く、他の年代よりもキッチン空間の収納の多さにこだわっている様子。一方60代は「必要なものにすぐ手が届くキッチン」を理想としている割合が全体より5pt以上高く、他の年代よりも物の出し入れのしやすさにこだわっている様子。このことから、キッチン空間に求められる収納の在り方の違いが年代によって見受けられる。

Q.あなたが思い描く理想のキッチンとしてあてはまるもの（いくつでも）

### 収納スペースが多いキッチン



### 必要なものにすぐ手が届くキッチン





### - 過去の調査より分っていたこと

2011年、2016年調査では、年代が上がるほどほぼ全てのアイテムで保有率が高くなること、一部の大きな調理器具類では50代をピークに60代以上で保有率が低くなることが分っていました。

### - 今回の調査で分かってきたこと

今回の調査では、全年代でほぼすべての調理器具類、食器類の保有率が前回調査より低下していることが確認され、キッチン空間における物の持ち方は年代問わずシンプルになってきている様子が伺えました。特に、20代30代の若年層を中心に使用用途が限られる調理器具類や、使用するシーンが限られる食器類の低下が顕著であることから、単機能なアイテムは汎用性の高い万能なアイテムや家電類等に置き換わっているのかもしれませんが。

### - キッチンに求められる役割の変化

20代30代の若年層では、シンプルな物の持ち方へのこだわりが影響しているのか、キッチン空間の収納に対し「余裕がある」と感じている人が増えていたり、60代では、子供が巣立つなどのライフステージの変化に伴い使わなくなった物を断捨離しているのか「ちょうど良い」と感じている人が増えています。昨年公開した「キッチン白書2019」では、和食メニューが減り一品で完結するようなメニューが増えており、家での食事が変化していることがわかっています。食の洋食化、食器のセット購入や物を所有することへのこだわりの低下、平均世帯人数の減少など、「食」と「物」の両面から見てもキッチンを取り巻く暮らしの変化が物の持ち方へ影響を与えている様子が伺えます。

さらに、思い描く理想のキッチンは依然として収納への関心は高く、20代では「収納スペースの多さ」、60代では「物の出し入れのしやすさ」に対するこだわりが強くなるなど、年代によって物の持ち方が異なれば、収納に対する重視点も異なることがわかってきました。



## - これからのクリナップ

単身世帯や共働き世帯が増加している昨今、料理に対する時短ニーズとともに栄養バランスを意識した食へのニーズも高まっています。これらのことから、キッチンが食から家族の健康を支えるためにも家の中でさらに重要な空間になると私たちは確信しています。

クリナップはキッチン専門家として、キッチンからより豊かな暮らしの提供ができるよう、調査から得られた傾向も踏まえつつ、今後の商品開発やお客様へのより良いサービスの提供を行ってまいります。



おいしい暮らし研究所®は、生活者の食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行っているクリナップの研究部門です。料理を作るキッチンだけではなく、作った料理を“おいしく楽しく食べられるような空間”作りも意識しながら調査を実施し、継続的にキッチン白書の充実を図ってまいります。

＜本書に関するお問い合わせ先＞

クリナップ株式会社 広報・ブランド推進課 E-mail : [inq@cleanup.jp](mailto:inq@cleanup.jp)  
過去のキッチン白書については… <https://cleanup.jp/oikura/kitchen-hakusyo/>

※本書原稿及び記載データの無断転載を禁じます